学生の確保の見通し等を記載した書類

1．定員設定の考え方及び充足の見込み

ア　定員設定の考え方及び定員充足の見込み

「経済財政改革の基本方針 2009」（平成 21 年 6 月 23 日閣議決定）において、「医師等人材確保対策を講ずる」ことが明記され、これを踏まえた文部科学省の取組みの一つに「研究医養成のための定員増」が示されたことを受け、本学においても社会情勢や国の施策の趣旨を踏まえて検討した結果、従来から行っている基礎・社会医学分野の教育・研究者を育成するべく、医学部医学科の入学定員の増員を要望し、研究医枠として、2 名の定員が平成 22 年度から 10 年間、その後引き続き令和 2 年度から令和 6 年度まで措置され、学生募集を行っている。

平成 22 年度から令和 6 年度の医学部医学科への志願状況・入学状況について、入学定員 107 名に対して、ほぼ毎年 300 名近くの志願者があり、入学者についても入学定員 107 名を上回っており、108 名となっても十分に入学定員を満たしている。

（表 1）医学部医学科入学試験状況

年度	志願者数	入学者数
平成 22 年度	303 名	109 名
平成 23 年度	324 名	110 名
平成 24 年度	328 名	111 名
平成 25 年度	338 名	112 名
平成 26 年度	326 名	111 名
平成 27 年度	328 名	111 名
平成 28 年度	328（5）名	112（1）名
平成 29 年度	331（5）名	113（2）名
平成 30 年度	349（16）名	109（3）名
平成 31 年度	312（14）名	109（4）名
令和 2 年度	278（17）名	106（2）名
令和 3 年度	299（12）名	107（2）名
令和 4 年度	273（8）名	110（1）名
令和 5 年度	296（9）名	110（2）名
令和 6 年度	302（14）名	112（2）名

（　）は、特色入試で内数

以上のことから、医学科の入学定員が 108 名となっても安定的に充足できると考えている。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

例年、全学で実施するオープンキャンパスの参加者数は、入学定員 107 名に対して、毎年 500 名程度の参加があった。令和 2 年度から、令和 5 年度はコロナ禍の影響で Web 開催となったが、医学部医学科が提供した動画コンテンツには 1000 件程度のアクセスがあった。参加者アンケートの結果においても、入学意思がさらに強まったとの意見を多く受けていることから、十分に定員充足できるものと考えている。

（表 2）医学部医学科オープンキャンパス参加状況

開催年度	参加者数
平成 27 年度	515 名
平成 28 年度	526 名
平成 29 年度	517 名
平成 30 年度	495 名
令和元年度	502 名
令和 2 年度（Web 開催）	（医学科提供動画へのアクセスのべ件数）1169 件
令和 3 年度（Web 開催）	（医学科提供動画へのアクセスのべ件数）1094 件
令和 4 年度（Web 開催）	（医学科提供動画へのアクセスのべ件数）906 件
令和 5 年度（Web 開催）	（医学科提供動画へのアクセスのべ件数）973 件

２．学生確保に向けた取り組み

上記、オープンキャンパスの開催に加えて、平成 28 年度より一般入試とは別に研究志向を持つ学生を入学させる特色入試を実施している。求める人物像として、医学・生命医学に深い関心を持ち、真摯な姿勢、強い熱意を持って真理を探究し、世界の医学をリードする医学研究者としての資質・適性を持つ人材を求め、医学部が提供する MD-PhD コースへの進学を希望する人材としている。また、志願者及び入学者は増加傾向にあり、リサーチマインドの高い学生の確保に貢献している。

さらに平成 3 年度からは、公益財団法人小林財団の支援による「医学部生育成支援プログラム」を開始し、研究医を目指す学生に対して学部 6 年間・大学院 4 年間、計 10 年間一貫の経済支援を行っている。

３．人材の社会的要請や人材需要の動向

近年、拡大及び派生する研究領域、臨床への橋渡し研究に対応できる人材の不足、MD 研究者の減少による医学を視野に入れた基礎研究の弱体化、研究者不足による医学領域における論文数の減少等の医学研究分野における課題が顕在化してきている。これまで全国の多く

の大学へ教育者・研究者を送り出してきた本学医学部・医学研究科においても、近年は基礎系医学の後継者候補が減少し、医学以外の分野出身者への研究依存度が高くなっている。しかし、医学を修め人間の健康や疾患を熟知した医学分野出身者による医学の教育研究は、その発展に欠かせないものであり、診療医養成に向けた施策によって生じてきた、将来的な医学教育研究者が不足する恐れに対し、早期に対処することが必要不可欠である。この重大な懸念に対応すべく、平成 22 年度より京都大学医学部医学科の入学定員を研究医養成枠として 2 名増員し、学部教育において研究医養成を促進するための講義・演習の実施、研究活動の支援を行ってきている。

しかしながら、研究医としての進路選択を入学後に案内していたのでは、学生の意識にも反映されにくいこともあり、平成 28 年度から研究志向を持つ学生を対象とした特色入試を実施してきた。当初に比べると、希望者及び合格者が年々上昇していることから、その効果は認められるが、入学者が研究医となるには相応の年数がかかること、また、日本全体としての研究医の数を維持するためには、過去に医学部を卒業し研究医になった者の数と同水準の研究医志望者が引き続き養成され続ける必要がある。令和 7 年度以降も、研究医を養成する目的を果たすため定員 3 名を増員し、基礎・臨床医学分野の教育・研究者として我が国の近未来的医学教育を推進する人材の育成に取り組む必要がある。

（以上）